

選挙報道を通して問うメディアの役割 ～民主主義のための情報発信とは～

岡山県立岡山南高等学校
メディア研究チーム

BeLiveプレゼンテーションイベント

選挙報道を通して問う

メディアの役割

～民主主義のための情報発信とは～

岡山県立岡山南高等学校 メディア研究チーム



I 研究の背景と目的

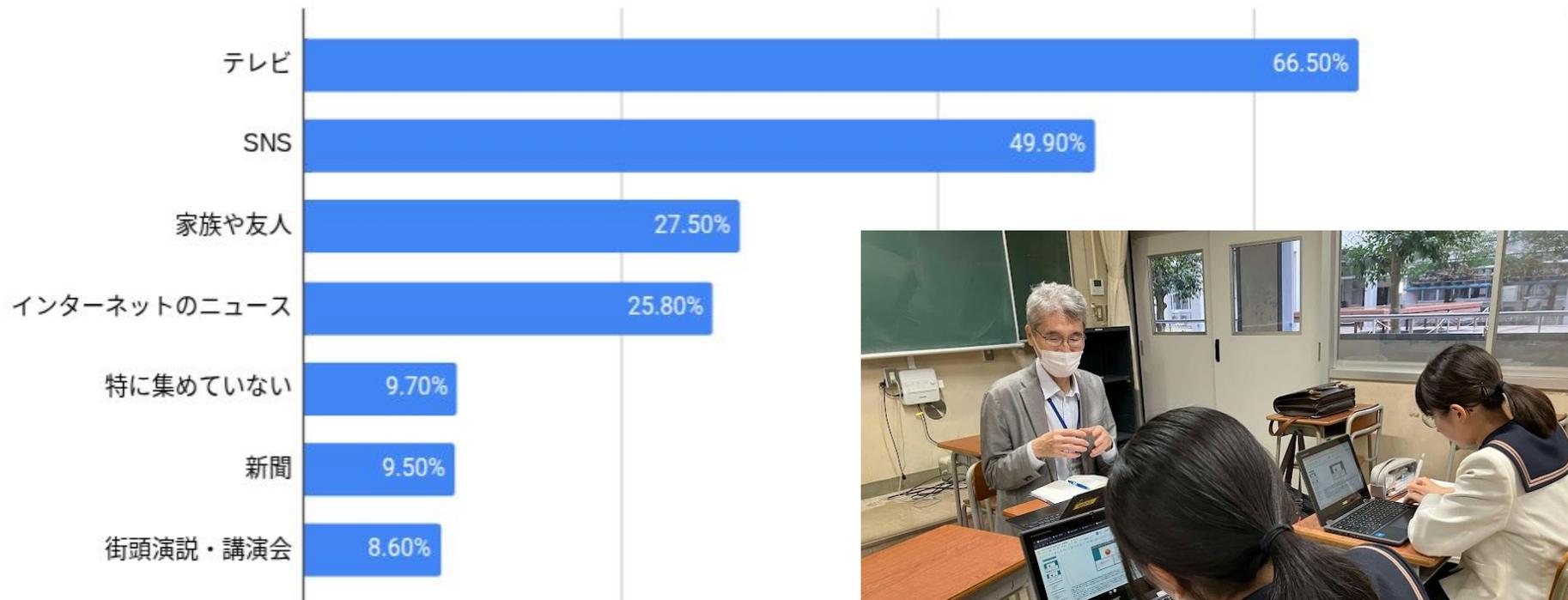
II 方法と調査対象

III 分析

IV 考察「メディアの責任と市民の姿勢」

V 展望「メディアの未来と持続性」

選挙についての情報をどのように集めていますか？（複数回答可）



研究の背景と目的

	小池氏	蓮舫氏	石丸氏	田母神氏
読売新聞	92	52	17	8
朝日新聞	31	23	13	5
山陽新聞	70	42	18	12

昨年度の研究
「マスメディア
は、公平で信頼
できる情報源と
して機能するこ
とが重要であ
る。」

新聞協会の声明 | 6月12日 (木)

選挙は民主主義の根幹です。不正確な情報が選挙結果に強く影響することは民主主義の自壊を招きかねない事態であり、当協会はこれを深く憂慮します。

「公職選挙法第148条に関する統一見解」は、選挙に関する報道・評論の自由を公選法が大幅に認めていることや、虚偽や事実を曲げたものでない限り、結果として特定の政党、候補者に利益をもたらしたとしても問題はないことを、判例等を含めて明らかにしています。

| 目次



I 研究の背景と目的

II 方法と調査対象

III 分析

IV 考察「メディアの責任と市民の姿勢」

V 展望「メディアの未来と持続性」



方法と調査対象

対象：参議院選挙に関する新聞記事

全国紙 **3紙**

読売新聞・朝日新聞・毎日新聞

地方紙 **2紙**

山陽新聞・神戸新聞

計**5紙**

| 目次



I 研究の背景と目的

II 方法と調査対象

III 分析

IV 考察「メディアの責任と市民の姿勢」

V 展望「メディアの未来と持続性」



各新聞社の選挙報道の特徴

朝日新聞 7月2日 天皇は「元首」「国は、主権を有し」… 憲法案に識者ら懸念

参政党の特徴の一つが「保守」色の強い政策だ。憲法については、一から作り直す「創憲」を提唱する。だが、天皇について「元首として国を代表」、主権について「国は、主権を有し」としており、「国民主権の否定では」などと批判を呼んだ。

山陽新聞 7月15日 外国人への生活保護 「違法」は間違い

相手候補が主張してもない政策を意図的に拡散させ、おとしめるケースも起きている。誤った情報をもとに投票する人が増えれば、民主主義の根幹が揺らぐと言わざるを得ない。

Ⅲ | 分析[神戸新聞]

1. 選挙公報の内容検証

正確性、ミスリード、保留、誤情報を候補ごとに分類・評価。

2. ネットやSNSの言説調査

投票制度や候補の過去発言など、誤情報の背景や理由を取材・検証。

3. 読者参加型の検証体制

情報提供を呼びかけ、9段階評価＋透明な判定プロセスを可視化。

神戸新聞は、参院選に関連して以下のようなファクトチェックを展開中

参院選、外国人巡る「誤った」言説拡散 「治安の悪化招く」「土地買っても相続税なし」

2025/7/12 05:30



社会 参院選 ファクト検証



20日投開票の参院選で、外国人の受け入れ政策が争点になる中、外国人を脅威とみなす主張や、日本人より優遇されているとする意見が広がっている。「治安」と「税制」を巡る二つの言説をファクトチェックした。

交流サイト(SNS)上では、外国人の増加が治安の悪化を招いているかのような言説が拡散されている。例えば、7月に入ってX(旧ツイッター)にあがった投稿には、外国人が起こした事件報道を引き合いに次のように記し、表示回数は197万回に達している。

「これ以上外国人増えたら治安は最悪になるよ」

これが体感治安としての意見ならば検証できないが、国や自治体の統計から判定すると、誤った印象や差別を助長しかねない「誤り」の言説だ。

出入国在留管理庁によると、外国人の入国者総数はインバウンド(訪日客)の影響もあり、2010年ごろの約1千万人から24年には過去最多の4034万人に。日本に住む在留外国人も増加傾向で、24年に過去最多の377万人となっている。

<https://kobe-np.co.jp/news/society/202507/0019216883.shtml>

III | 分析 【神戸新聞社へ取材】



神戸新聞社 編集局報道部の永田憲亮(ながたけんすけ)デスク



分析[神戸新聞社への質問と回答]

Q.報道機関として果たしたい役割、メディアの社会的責任

虚実ないまぜの情報があふれる中、報道機関である新聞社としては取材に裏打ちされた「事実」を連続的に発信し、有権者に届けることが重要です。

Q.ファクトチェックを始めた理由

昨年11月の兵庫県知事選で、Xなどの交流サイト（SNS）やYouTubeなどの動画投稿サイトで、偽・誤情報やデマ、真偽不明の情報が急拡散し、選挙結果に影響を及ぼしたとみられるためです。その上で、神戸新聞の読者や有権者が投票先を考える基礎になる「事実」を示し、投票に役立つ情報を積極的に示すことが目的。取材で「言説」を検証できる報道機関が果たすべき役割と考えました。

| 目次



I 研究の背景と目的

II 方法と調査対象

III 分析

IV 考察「メディアの責任と市民の姿勢」

V 展望「メディアの未来と持続性」

IV

考察「メディアの責任と市民の姿勢」

報道の自由
自律的に選ぶ責任



公平性は
量ではなく
質で決まる



メディアとは
何か

市民はどう
向き合うべきか

IV

考察「メディアの責任と市民の姿勢」

情報（ファクトチェック）を受け取る

+

吟味し、考える姿勢



ネガティブ・ケイパビリティ
(答えの出ない状況に耐える力)

↳ 民主主義の言論を支える**基盤**

| 目次



I 研究の背景と目的

II 方法と調査対象

III 分析

IV 考察「メディアの責任と市民の姿勢」

V 展望「メディアの未来と持続性」

V | 展望「未来のメディアと持続性」

新聞社への提案

地域のニュース
ウェブサイト運営



記事が生まれた背景・検証の過程

↳ 透明性の確保



広告などによる収入化

生徒の意識を高める授業づくり

高校生による

「ファクトかフェイクか」を柱とした授業づくり

ト情報の見極め方について学ぶ



ネガティブ・ケイパビリティを意識した授業

↳ 曖昧な情報に耐える力を身につける